

平成27年度

平塚市スポーツ優秀選手及び団体
14氏2団体を表彰

【個人】(敬称略・50音順)

◇朝比奈 沙羅 第28回ユニバーシアード競技大会(柔道競技) 柔道 女子 78kg超級 優勝

◇氏家 一郎 第25回 全日本実業団ベンチプレス(ノーギヤ)選手権大会 ベンチプレスMⅡ男子 120kg超級 優勝

◇ウルフ アロン 第25回 グランプリ・ウランバトル2015 グランプリ・タシケント2015 柔道 男子 100kg級 優勝

◇小原 拳哉 第28回ユニバーシアード競技大会(柔道競技) 柔道団体戦 優勝

◇阪部 創 文部科学大臣杯2015年度全日本学生レスリング選手権大会 グレコローマンススタイル75kg級 優勝

◇阪本 健介 平成27年度全日本学生柔道大会体別選手権大会 柔道 男子 100kg級 優勝

◇下石 涼太 第28回ユニバーシアード競技大会(野球競技) 優勝

◇高藤 直寿 第28回ワールドマスターズラバト2015・グラントスラム・パリ 柔道 男子 60kg級 優勝

◇外山 尚人 第25回 全日本実業団ベンチプレス(ノーギヤ)選手権大会 ベンチプレスMⅡ男子 66kg級 優勝

◇長澤 憲大 第28回ユニバーシアード競技大会(柔道競技) 柔道団体戦 優勝

◇平栗 邦光 第34回 全日本実業団パワーリフティング(ノーギヤ)選手権大会 パワーリフティングMⅡ男子74kg級 優勝

◇ベイカー 茉秋 第28回グラントスラム・チュメニ 柔道 男子 90kg級 優勝

◇米沢 茂友 天皇賜盃第84回日本学生陸上競技対抗選手権大会 2015日本学生陸上競技個人選手権 陸上競技(円盤投げ) 優勝

◇吉田 佑樹 第28回ユニバーシアード競技大会(野球競技) 優勝

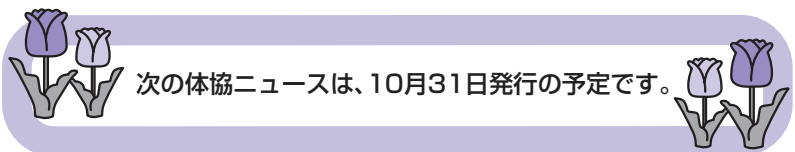
【団体】(敬称略・50音順)

◇東海大学 柔道部
・平成27年度 全日本学生柔道体別団体優勝大会 団体優勝
(監督) 上水 研一朗

(選手) 高藤直寿、竹内文汰、高市賢悟、俵隆太、片岡辰哉、高梨優也、小原拳哉、尾方寿應、長澤

憲大、ベイカー茉秋、阪本健介、ウルフアロン、上林山裕馬、影浦心
◇東海大学 自動車部
・平成27年度 全日本学生ターゲットライアル選手権大会 団体優勝
(監督) 松木 三徳
(選手) 飯田輝、齋藤巧

前列左から、齋藤巧氏(東海大学自動車部)、氏家一郎氏、田中國義平塚市体育協会会長、落合克宏平塚市長、伊藤裕平塚市まちづくり財団理事長、外山尚人氏、平栗邦光氏
後列左から、松木三徳氏(東海大学自動車部)、飯田輝氏(東海大学自動車部)、阪部創氏、高藤直寿氏、小原拳哉氏、ウルフアロン氏、長澤憲大氏



広報委員

粟生 光一 / 佐藤 宗夫 / 南雲 弘 / 安藤 武夫 / 中川 仁 / 宮田 実

平塚市体育協会機関誌
「平塚市
体協ニュース」
第59号

●発行日

平成28年3月31日

●発行人

会長 田 中國義

●発行所

平塚市体育協会事務局

平塚市大原1-1

電話 0463(31)3060

FAX 0463(31)9640



平塚市体育協会
シンボルマーク

このシンボルマークは、「明るく、強く、逞しく」の三つのスポーツ精神を象徴しています。

平塚市体協ニュース

第59号

平成28年3月31日

平塚市体育協会機関誌

平成27年度神奈川県体育功労者表彰

本市からは 秋澤耕治氏に栄誉

平成二十七年神奈川県体育功労者表彰・同スポーツ優秀選手表彰が一月九日、神奈川県立総合教育センターで行われました。本市からは秋澤耕治氏がこの栄誉に浴しました。秋澤氏の主な功績を御紹介します。



秋澤 耕治氏

◎昭和四十五年から平塚市バドミントン協会理事に就任、その後、常任理事、副会長を経て、平成二十三年四月に会長に就任し、現在に至る。バドミントンの指導では、学生時代に平塚商業高校のコーチとして、故大木一郎会長のサポート役として、国体、インターハイ、関東大会

への個人、団体出場へ尽力する。会長就任後は、特に小学生以下のバドミントン競技の普及、強化に傾注して、平成二十五年早々にスポーツ少年団（平塚ジュニア）の立ち上げに尽力して、結果を残している。従前よりスポーツ少年団の設立は望まれていたが、中々実現に至らなかったが、会長就任後に真っ先に取り組んだのが、協会主導によるスポーツ少年団の設立だった。以上、四十五年にわたり、平塚市におけるバドミントン協会組織の発展はもろろん、競技の普及、振興、社会体育活動に貢献している功績はまことに顕著である。

主な現職役職

- ・平塚市バドミントン協会 会長
- ・平塚市体育協会 評議員

平成27年度

平塚市体育協会 体育功労者4氏を表彰

平成二十八年二月十一日、平塚市体育協会納会において、平成二十七年平塚市体育協会体育功労者四氏の表彰を行いました。ここに主な功績をご紹介します（五十音順）。

◇秋山 幹雄氏
（平塚市陸上競技協会）

昭和六十三年、日本陸上競技連盟第三種公認審判員資格を取得。陸上競技の普及と選手の育成に尽力した。

平成十年、第一種公認審判員取得の頃より県や市の競技会において、投擲審判員の主任として活躍。卓越した審判技術は誰からも認められ、高い評価を受けている。また、市内一周駅伝では、中継所審判の主任として活躍。

平成十一年理事に就任し、平塚市陸上競技協会の運営に携わり各種大会等の円滑な運営に力を発揮している。更には強化部として市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会の代表選手の選考や強化練習・育成にも尽力した。平成二十五年から平塚市陸上競技協会の副会長として会務を遂行し、陸上競技協会の発展に貢献している。

以上のとおり、陸上競技の普及、発展に貢献した功績は誠に顕著である。

◇柏木 重子氏
（平塚市弓道協会）

平塚市弓道協会理事に就任し、弓道教室の講師を積極的に務め、自身の活躍と併せ、後輩の指導に力を注いだ。平塚市弓道協会の行事の裏方の仕事を行うなど、長年にわたり、平塚市弓道協会を支え、牽引してきた。

弓道に取り組む真摯な姿勢と寛容な人柄が年配の会員には励みに、青年や女子の会員には良き相談役として、多くの弓道会員から師事されている。

今もなお、昇段に向け挑戦を続けている姿勢は幅広い年齢層の規範である。

近隣市町村の弓道団体との交流も深く、他協会との交流・発



左から、柏木 重子氏 (平塚市弓道協会)、齋藤 豊氏 (平塚バスケットボール協会)、秋山 幹雄氏 (平塚市陸上競技協会)、宮田 実氏 (平塚ゲートボール協会)、田中 國義 (平塚市体育協会会長)

(1面より続く)
 展にも貢献されている。
 現在も平塚市での弓道の普及、技術の向上と併せて、平塚市弓道協会の運営に多大な貢献をしている。
 以上のおり、弓道競技の普及、発展に貢献した功績は誠に顕著である。

◆齋藤 豊氏
 (平塚バスケットボール協会)
 昭和四十一年度から平塚バスケットボール協会理事として協会運営に参画して以来、約五十年間にわたり、本協会の中樞を担ってきた。
 昭和四十四年度から九年間は、競技委員長として主に一

般(クラブチーム)の大会運営に尽力し、昭和五十三年度から三年間は、当時新設された技術委員長として平塚市全体のバスケットボールの技術力向上に寄与した。
 昭和五十六年度から二年間は、審判委員長として活躍すると共に、神奈川県バスケットボール協会公認審判委員、日本バスケットボール協会公認審判委員の資格を取得し、審判活動にも意を注いだ。
 昭和六十年年度から平成十一年度までの十五年間、平塚バスケットボール協会副理事長として、協会の円滑な運営に寄与した。また、この間、日本のトップリーグの大会を平塚市で開催するために尽力すると共に、大会運営の責任者としても手腕を発揮した。
 昭和五十一年度から平塚バスケットボール協会の代表、神奈川県バスケットボール協会の理事として、協会運営に尽力すると共に、神奈川県と平塚市の協会のパイプ役としても重要な職責を果たした。
 平成十二年度から十一年間にわたり、平塚バスケットボール協会会計監査として、尽力した。平成二十三年度から平塚市バスケットボール協会の副会長として協会運営に参画している。
 以上のおり、バスケットボール競技の普及、発展に貢献した功績は誠に顕著である。

◆宮田 実氏
 (平塚ゲートボール協会)
 神奈川県連合ゲートボール大会、平塚ゲートボール協会の「月例競技会」「ひらつか七夕まつり親善ゲートボール協会」などの各種大会、講習会において、積極的に役員、また、審判員として参加し、優れた審判技術を発揮し、指導的な役割も果たしている。
 平成十七年に、日本体育協会公認スポーツ指導者資格を取得し、平塚、中支部の三級審判員資格取得の講師として後進の育成に尽力している。
 平成二十一年から平成二十四年には県立大原高校の体育授業にゲートボールの講師として、平成二十五年からは県立大磯高校で、生徒の知的好奇心を育て、広い視野と豊かな教養を身につけることを目的とする講座の講師としてゲートボール教室が開

平塚市剣道連盟

加盟団体だより

平塚市剣道連盟は、「平剣三つの心(礼儀・友愛・感謝)」の理念の基、一般会員二百九十一名、小・中・高生三百七十九名が十五支部に所属し、市内の中

催され、講師を務める。
 平成二十五・二十六年神奈川県ゲートボール連合常任理事・中支部長として地域のゲートボールの普及、振興の先頭に立ち、大会開催を主導した。
 平塚市体育協会では、現在、広報委員・理事を務め、市民総合体育大会、ひらつか市民スポーツフェスティバル等では協会運営の中心的役割を果たしている。
 平塚ゲートボール協会では平成十六年に副事務局長を務め、平成十八年からは事務局長として協会の事務・総務全般・審判技術の向上、管理運営に尽力する。
 常に自己技術の向上に努めると共に、後進の育成に努め、協会の発展に尽力している。
 以上のおり、ゲートボール競技の普及、発展に貢献した功績は誠に顕著である。

学校・高校とも連携を取り、活動をしています。
 年間の主な行事としては、初稽古会(一月) 錬成大会(六月)、少年・少女剣道大会(十月)、小・中学生錬成稽古会、合同稽古(3面へ続く)



(2面より続く)
古会(毎月一回)、各支部大会などがあります。
指導者を対象に、審判講習会、心肺蘇生法(AED)講習会、熱中症予防講習会など、指導者としての知識をつけるための行事も積極的に計画・実施しています。また、昨年度は、平塚市剣道連盟として、初めての「演武大会」(三月)を開催し、中学生は「日本剣道形」、小学生は「木刀による基本稽古法」を演武しました。この大会は、会長が平成二十七年目の目標として、形の重要性を喚起して、新たなことを「起こす」ことを掲げ、計画・実施し、すばらしい演武大会となりました。
剣道は、日本刀を模した竹刀

で闘う武道ですが、単なる竹刀の打ち合いではなく、「充実した氣勢、適正なる姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものとする」と定められた有効打突部位を取る為の攻め合いです。それと同時に剣道は「礼に始まり礼に終わる」と言われる礼節を重んじる武道です。人を尊敬し、思いやる気持ちを常に持ち、大切にしてい、武道の伝統を未来へ受け継いで行けるような取組みをしたいと思っています。
昨年度は「起」という一字のもとで、活動してきましたが、平成二十八年度は「数」という言葉を合言葉にして、一本でも多く「数」をかけた稽古をし、各大会や行事に取り組んでいきたいと考えています。

平塚水泳協会

当協会の最近のトピックスとして、「かながわスポーツマスターズ水泳大会」で、昨年(第三回)、昨年(第四回)と、総合準優勝を果たしたことを紹介します。
この大会は、二〇一〇年の第六十一回大会で終了した神奈川県総合体育大会水泳競技大会を引き継ぎ、神奈川県水泳連盟が主催、傘下の各水泳協会が選手を集め、市町村対抗形式で、二〇一二年第一回大会としてスタートしました。大会の目的は「県民皆泳」の趣旨に則り、水泳の楽しさを体験し広く普及させ、底辺の拡大を狙いとしております。
市町村の勝敗は、競泳各種目を五歳毎に区分し、それぞれの個人の結果を元に一位・八点、八位・一点まで集計し、その合計得点で、男子・女子及び総合の順位を決めます。
平塚市は第一・二回大会こそ総合四位でしたが、女子の質的・量的強化により、第三回大会で総合準優勝(男子準優勝、女子三位)昨年の第四回大会では男女とも準優勝、二年連続総合の準優勝を果たしました。優勝は圧倒的な参加者数を誇る横浜市



で現在四連覇中です。
平塚市が横須賀市、相模原市、川崎市等の県内の強豪相手に健闘している要因は、参加者の日頃の努力は勿論ですが、当協会が主催する各種の大会、今年で五十回を迎える「平塚市少年少女水泳大会」(平塚市主催、当協会主管)等が選手層の底辺拡大に寄与していると思います。これらの大会は、当協会役員、スポーツ少年団の父母が支えています。
今後も県内有数の五十メートルプールを擁する環境を生かし、優勝を目指して横浜市に挑んでゆきます。

平塚市ソフトボール協会

昭和三十年の創立以来、今年で六十二年となりました。
昨年の二月には、六十周年の記念として、式典を行うことができました。感謝申し上げます。
さて、近年若年層の体力低下が問題視されており、その対策として学校をはじめ各団体の取り組みで、誰もが気軽に参加できるような環境づくりが行われております。そんな中、私たちはソフトボールを通じ、中高生をはじめ、一般から家庭婦人まで幅広い年齢層の方々に御参加をいただき大会の運営を行っております。
現在は市内女子チーム中学六



校、高校三校が競い合い熱戦が繰り広げられております。また、中高生合同の交流試合も行っており、中学生にとってはレベルアップに繋げる良い機会です。技術講習会では全国大会制覇の県立厚木商業高校の選手たちにより、御指導をいただきました。みなさん緊張した様子ですが、あれの先輩方と過ごせた時間はとても大きな経験となったことと思います。
最後に「始めるきっかけが無い、疲れるからやりたくない」という声を耳にします。走るのが苦手、ボールが怖いなど、つい運動を敬遠しがちになるのもわかりますが、是非みんながソフトボールをやりましょう！健康のためにも。